

8-3-8 損害賠償責任検討WG

1. 主な活動の記録

(1) WG の開催

WG 開催回数:3 回

コアメンバー会議:5 回

(2) WG の活動経緯

建設コンサルタントの損害賠償責任のあり方について、令和元年まで企画委員会「契約のあり方専門委員会」にて検討されてきたが、検討のスピードを上げて協会としての提言等を作成し発注機関への働きかけを行うために、令和元年 12 月に別途、本 WG が設置された。

(3) WG の活動内容

a) 検討概要

建設コンサルタント業務は、多くが公共土木設計業務等標準委託契約約款(以下、標準約款)に基づき実施されているが、委託契約は民法における請負契約と位置付けられ、設計ミス等が生じた場合に、「企業の責任範囲が不明確」、「賠償責任範囲が無限に拡大するリスクを背負っている」などの課題がある。建設コンサルタントの損害賠償責任のあり方を検討し、各企業が契約当事者として公正な契約が締結できるよう、標準約款のさらなる改正などを発注機関へ提案することが必要であることから、以下の 4 項目について検討を実施した。

- ① 建設コンサルタント業務の契約
- ② 建設コンサルタントの損害賠償責任
- ③ 損害賠償責任のあり方
- ④ 標準約款等の改正案の提案

本 WG 15 名の委員が上記を分担して、「損害賠償責任の上限金額設定」、「準委任型約款の検討」について、前年度からの継続検討を実施した。

b) 国土交通省との勉強会の実施

土木設計業務の契約等に関する従前からの課題(著作権、損害賠償責任のあり方、準委任契約の扱いなど)について、国土交通省(建設市場整備課、技術調査課)と建設コンサルタンツ協会(契約のあり方専門委員会、本 WG)とで継続的な議論を行い、各課題の明確化、解決の方向性について両者で共通認識を得ることを目的とした勉強会を開始し、令和 3 年度に 2 回実施した(令和 2 年度から合計 6 回実施)。

2. 次年度の活動について

弁護士等の専門家ヒアリング、保険会社へのヒアリングを行い、検討内容をブラッシュアップした上で、協会として対外的に働きかけていくための提言作成を継続検討する。

(損害賠償責任検討WG

WG長 清水 隆史)